草加市倫理法人会
モーニングセミナー報告(10月)

（会場）埼玉屋旅館
草加市高砂1-10-13　048-922-4141

10月16日(木)第872回
講師：梅澤　千雅子　氏
大阪府寝屋川市倫理法人会　会員
テーマ：「感動・感謝が運命を変えた」

一九八八年のある日、目が覚めたら突然手足が動かない状態になり悪性のリウマチと診断された。人生に絶望し、自殺未遂を引き起こす。そんな自分に、母は「息をしているだけでいいから生きて」と励ます。「心の持ち方」「物の見方」などを変えることで、自分の可能性を見出す。高野山の画僧、藤原祐寛氏に師事、日本画壇に入門する。前向きに生きている自分に天は二度目の苦難を与える。事故により右腕粉砕骨折と診断される。二度と絵筆を持てない身体となってしまう。そんな時二〇〇九年、アール・グラージュ（時間とともに変化していく絵画）に出会い心が癒され、一歩踏みす勇気と希望を与えられる。一歩踏み出すという心が無限の可能性を持つアーティストとしての魂を再び目覚めさせた。

早川　純一　記

10月2日(木)第870回
講師：新原　隆一　氏
（一社）倫理研究所　参与
テーマ：「天候気候と事業の盛衰」

創始者丸山敏雄の自然観は「天候気候こそ、千変万化の宇宙の動きを最も早く如実に知らせるものであろう」として天候気候の倫理は「今日も明日も一分も一秒も離れる事の出来ぬ天候気候に対する心構えとその行いにある」としている。そして、それは「順応：そのまま素直に受け取って、手だてをして、少しも不足に思わず反抗せぬこと」と「畏親：えらい力だと敬い畏れ、和やかな心で親しむ事」であるとしている。天候と肉体との関係では「天気天候は、どうすることもできぬ物であり、これに気を遣い心を砕き、心配し、恐れる事がどれだけ多くの病気の原因になり動機になり、また起こった病気を悪くする役目をさせている事であろう」としている。天候と事業の関係では「天気天候の良し悪しにその原因があるのではなく、そうした天候に引きずられて、人の心がだれたり引き締まったりするのである」「人が穏やかな心で天候に順応する時、天候もまた人に優しく和らいでくるのである」　高橋　茂行　記

10月23日(木)第873回
講師：風間　利高　氏
草加市倫理法人会　副会長
テーマ：「挑戦者でありたい！」

七年前に三上法人アドバイザーと佐野相談役の紹介で草加市倫理法人会に入会、そこから倫理の道へ歩み出しました。同時にこの七年間は会社の後継と子育ての重要な時期でもあり倫理に多くの面で救われました。稼業を継承するにあたり、二年半の修行を経て、現在は五名のスタッフと日々奮闘中です。そんな中、自分の倫理実践とは何かを考えました。まずは、自分が幸せを感じること、人に感謝ができる人間になる事が一番大事と気づきました。そして大切な六つの幸せ実践、自己、家族、社会、草加市民、国民、世界とそれぞれの幸せを願いながら実践をしていきたいと思います。その事を真剣に語る、風間副会長の姿は、まるで菩薩のように感じました。

白井　義臣　記

10月9日(木)第871回
講師：柴崎　猛　氏
寄居・秩父倫理法人会　相談役
テーマ：「倫理の真髄」

平成十四年に倫理法人会に入会し、自分が救われて、人も救われることが正しいと気づきました。実践なき倫理は毒であり、百の倫理より一つの実践が大事であることを学びました。実践第一です。人は生まれた時は「ヒト」なのです。「ヒト」は教育によって「人」になります。「人」は倫理の学びによって「人間」になります。人と人の間に本質があり、「人間」は長じて「間人」になります。「間人」とは行き着くところに行き着いた人の事です。「心の欲するところに従って矩をこえず。」の言葉のように、心の赴くままに生きても決して道を外れずに生きられる人物を目指しましょう。心の経営をして社員を惚れさせましょう。「惚」という字には、心が二つ入っています。「心友」につながり「親友」になります。トップが変われば会社は変わります。

大谷　光徳　記

10月30日(木)第874回
講師：冨田　英則　氏
久喜市倫理法人会　会長
テーマ：「100年企業を目指して」

三十三歳の時に倫理法人会に入会し、素晴らしい経営者と出会いました。鹿島節子さんからは「ありがとう」と笑顔の実践、親への感謝を学びました。吉岡貞義さんからはお墓参りの実践、継続・徹底してやりぬく実践を学び、小山久雄さんからは凡事徹底と活力朝礼のご指導をいただきました。そして、蓮見勝利さんを「倫理の父」斎藤和子さんを「倫理の母」と思い慕っています。後継者倫理塾では委員長として、二代目経営者の素晴らしさを学びました。これらすべての出会いや学びを通して、現在、二代目として代表取締役社長を務める（株）トミタモータースをこれから先、100年100億企業に成長させるよう目指していこうと思いました。

吉岡　明夫　記